

岩手県感染症週報

平成27年第28週(7月6日～7月12日)

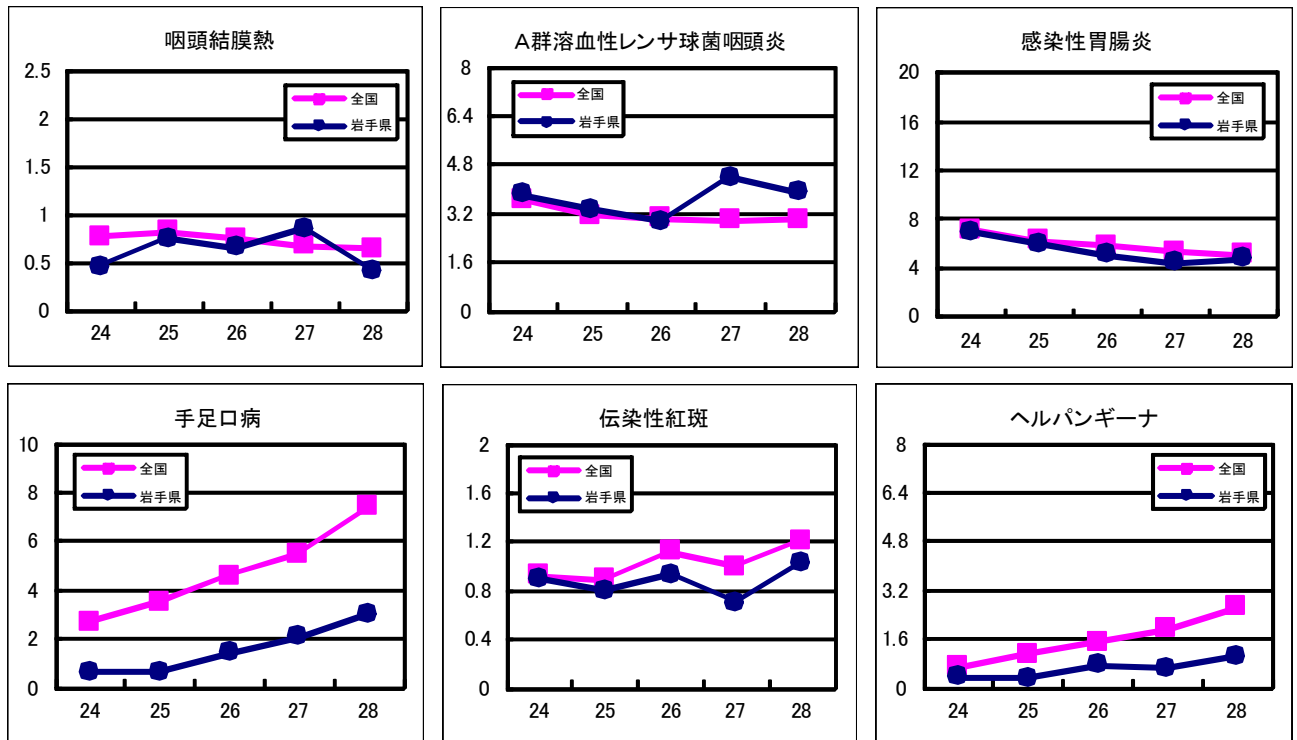
岩手県感染症情報センター

第28週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核 の報告が5例ありました。このうち潜在性結核 の報告は2例でした。
- 3 類感染症 ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・手足口病は、二戸地区で5月下旬から警報値(定点あたり患者数5人)を超えた状況が続いています。また、この週は県央地区でも警報値を超えたほか、盛岡市および中部地区でも多くなっています。全国では、前週(第27週)に警報値を超えました。本疾患は、まれに髄膜炎を併発することがあり、頭痛や嘔吐などの症状がある場合は、小児科受診が必要です。
 - ・ヘルパンギーナは、県央および大船渡地区で報告数が多くなっています。夏に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。
手足口病およびヘルパンギーナは、咳などによる飛沫感染の他に、便中にもウイルスが排出されるため、予防には手洗いの徹底が重要であり、集団生活を営む保育園などでは特に注意が必要です。
 - ・溶連菌咽頭炎は、前週より減少しましたが、例年のこの時期に比較して患者数が多く、二戸地区では警報値(同8人)を超えており、引き続き注意が必要です。予防には、患者との濃厚接触を避けること、手洗いやうがいの励行が重要です。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが異なることに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		24	25	26	27	28		
インフルエンザ	岩手県	0.29	0.02	0.12	0.06	0	→	
	全国	0.17	0.13	0.11	0.1	0.09		
RSウイルス感染症	岩手県	0.1	0.08	0.08	0.13	0.31	→	☆
	全国	0.09	0.1	0.08	0.1	0.11		
咽頭結膜熱	岩手県	0.45	0.75	0.65	0.85	0.41	→	☆☆
	全国	0.77	0.82	0.74	0.67	0.64		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	3.83	3.33	2.95	4.38	3.87	→	☆☆
	全国	3.64	3.13	3.03	2.97	2.99		
感染性胃腸炎	岩手県	6.98	6	5.05	4.45	4.77	→	☆
	全国	7.1	6.19	5.8	5.28	5.08		
水痘	岩手県	0.38	0.55	0.58	0.35	0.38	→	☆
	全国	0.42	0.45	0.45	0.4	0.42		
手足口病	岩手県	0.65	0.63	1.4	2.08	3	↗	☆☆
	全国	2.67	3.49	4.56	5.48	7.39		
伝染性紅斑	岩手県	0.9	0.8	0.93	0.7	1.03	↗	☆☆
	全国	0.92	0.89	1.12	1	1.21		
突発性発疹	岩手県	0.45	0.63	0.45	0.6	0.59	→	☆
	全国	0.64	0.65	0.68	0.61	0.62		
百日咳	岩手県	0	0.03	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.33	0.3	0.73	0.63	1.03	↗	☆
	全国	0.68	1.1	1.49	1.92	2.65		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.1	0.05	0.2	0.1	0.21	→	☆
	全国	0.43	0.49	0.56	0.55	0.58		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02		
流行性角結膜炎	岩手県	0.36	0.5	0.36	0.5	0.43	→	☆
	全国	0.71	0.75	0.77	0.84	0.71		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.04	0.05	0.03	0.03	0.05		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.11	0.32	0.37	0.21	0.21	→	☆
	全国	0.25	0.27	0.26	0.3	0.25		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0	0.11	0.11	0	0.05	→	
	全国	0.2	0.13	0.08	0.05	0.04		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	5	0	2	1	0		
	全国	10	14	12	11	4		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※中東呼吸器症候群 (MERS) 及び鳥インフルエンザ (H7N9) が2015年1月21日より二類感染症に追加されました。

(患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					累計	全国	
		24	25	26	27	28		28	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	3 (0)	11 (6)	4 (3)	6 (4)	5 (2)	126 (54)	352	12638
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	5	78
	腸管出血性大腸菌感染症	3	1	3	0	0	9	140	1322
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	21
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	22
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	1	0	3	4	107
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	5	150
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	8
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	5
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	27
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	1	11
	つつが虫病	0	0	0	0	0	4	2	70
	デング熱	0	0	0	0	0	0	6	127
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	3	70
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	1	4
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
ポツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	2	21	
野兎病	0	0	0	0	0	0	0	1	
ライム病	0	0	0	0	0	0	1	3	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	0	0	13	45	690	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	6	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘 (入院例)、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネトバクター感染症が2014年第38週より報告されることになりました。

分類	疾病名	岩手県					全国		
		24	25	26	27	28	累計	28	累計
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	2	16	584
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	1	0	1	0	134
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	0	16	690
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	1	0	0	2	6	283
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	9
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	3	94
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	5	253
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	15	746
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	39
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	2	132
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	18
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	1	0	13	18	1418
	水痘 (入院例)	1	0	0	0	0	3	4	164
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	34	1207
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	1	66
	破傷風	0	0	0	0	0	1	2	52
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	29
	風しん	0	1	0	0	0	1	3	107
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	24	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	18	

今注目の感染症

つつが虫病

つつが虫病は、ツツガムシ病リケッチアに感染したツツガムシ (ダニの一種) の幼虫の刺咬により感染します (図1)。

岩手県での発生状況ですが、春から夏と、秋から冬にかけて2つの発生のピークがみられます (下グラフ)。2015年はこれまでに、4月に1例、5月に3例の報告がありました。

ツツガムシの生息しているような場所 (野山や田畑、河川敷等) に立ち入る場合には、肌の露出を少なくして、防虫剤 (ある程度効果が見込まれる) を適宜使用しましょう。帰宅後は速やかに入浴やシャワーなどで、ダニを洗い流すことも大切です。

潜伏期間は5日から15日間で、症状は発熱、刺し口、発疹が主要症状です。つつが虫病は適切な治療を早期に受けることが重要です。野外での活動の後、疑わしい症状が出た場合には、早めに医療機関を受診しましょう。野外での活動のことを医師に伝えることも大切です。

参考: 国立感染症研究所

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>

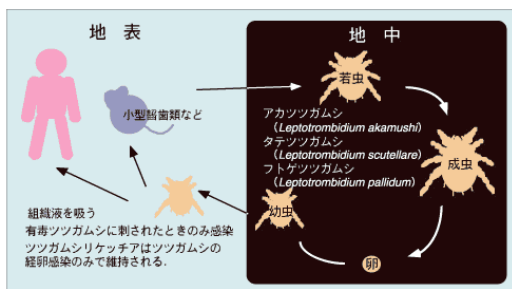
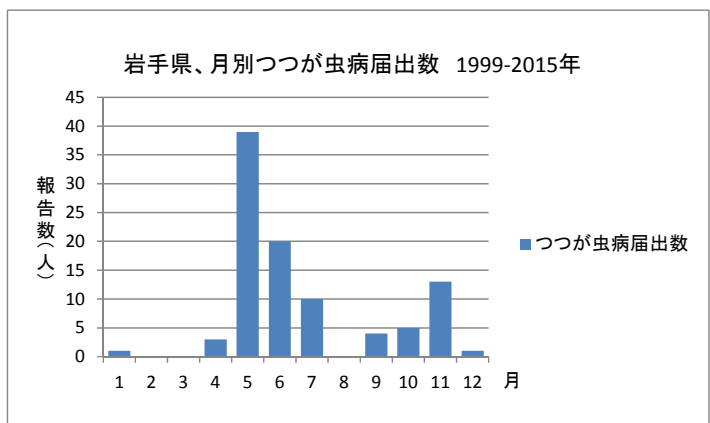


図1. ツツガムシの生活環

図1 ツツガムシの生活環
— 国立感染症研究所HPより —



今注目の感染症 (つづき)

レジオネラ症

レジオネラ症は、細胞内寄生性のレジオネラ属菌による感染症です。菌は経気道感染して、肺胞マクロファージに侵入し増殖します。病系には肺炎型と感冒様のポンティアック熱型があります。レジオネラ肺炎は、他の細菌性の肺炎との区別が困難で、適切な抗菌薬の投与がない場合、急速に全症状が悪化する例があるので注意が必要です。治療には、キノロン系やマクロライド系の抗菌薬が有効です。

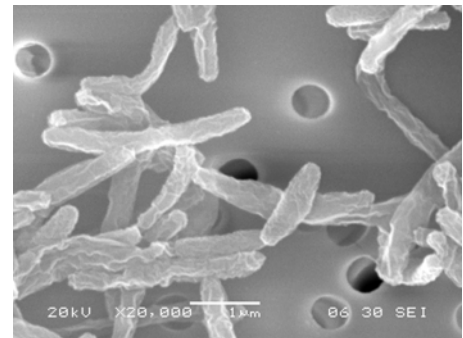
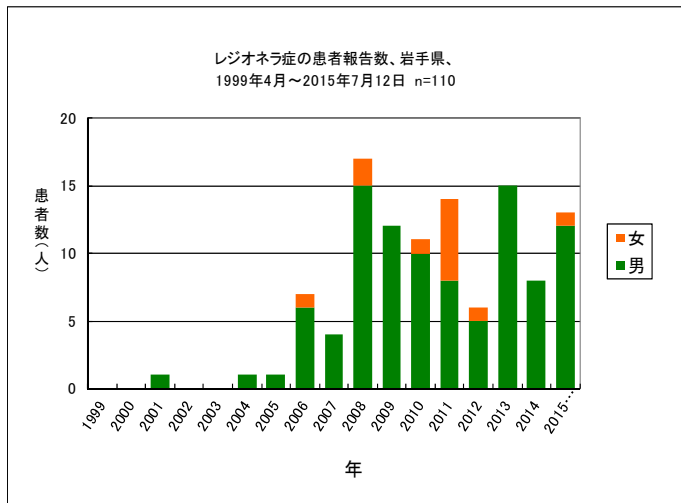
この菌は土壌や水環境に普通に存在する菌で、この菌に暴露されても発症することはまれですが、高齢者や新生児、免疫力低下をきたす疾患を有する方はリスクが高く、注意が必要です。なお、人から人への感染はありません。

岩手県では2006年から2015年6月14日までに、110例の報告がありました。うち98例が男性でした。また、年齢層別では、30歳未満には少なく、60歳代が最も多く報告されています。

2015年第20～第28週に、合わせて13例が報告されています。詳しくは盛岡市のホームページへ。

<http://www.city.morioka.iwate.jp/kenko/kansen/033048.html>

参考 国立感染症研究所 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ra/legionella.html>



レジオネラ属菌の走査顕微鏡写真

図1 年別患者報告数、岩手県
1999年4月～2015年7月12日 n=110

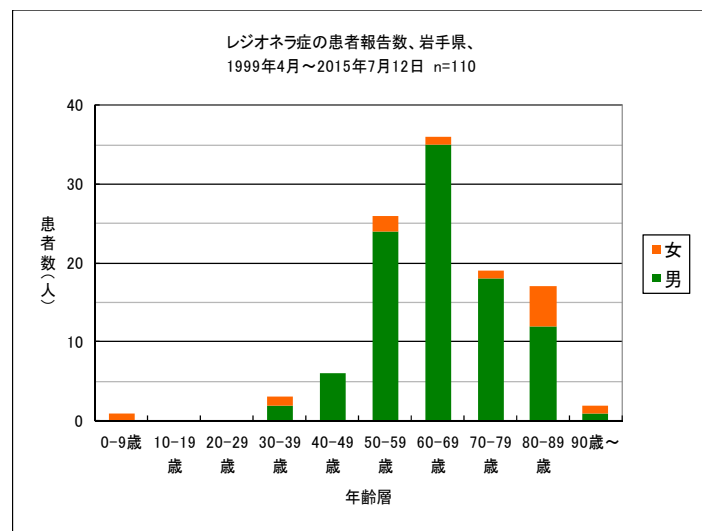


図2 年齢別患者報告数 岩手県 1999年4月～2015年7月12日 n=110

今注目の感染症 (つづき)

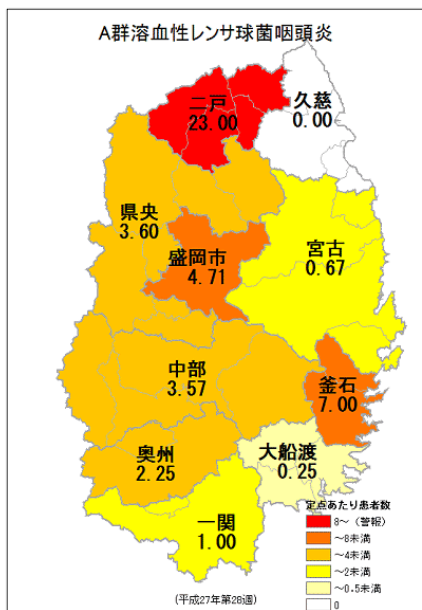
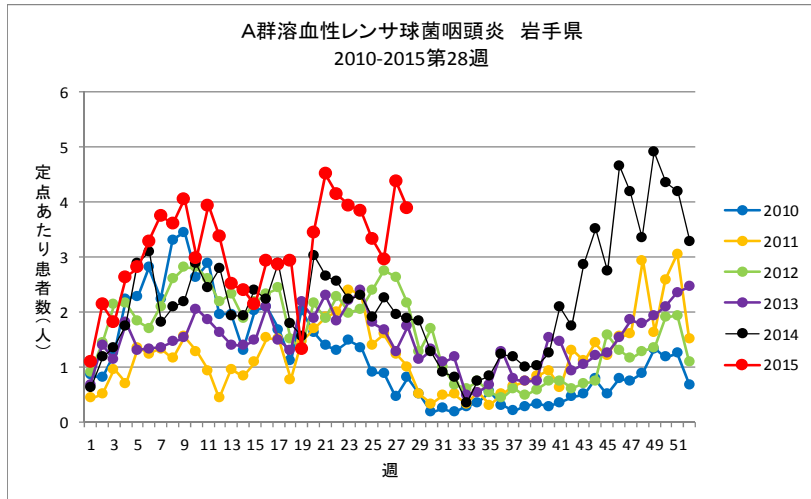
A群溶血性レンサ球菌 (溶連菌) 咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭炎、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後急性腎炎を併発することがあるので、7～10日間の抗菌剤内服が重要です。予後良好の疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

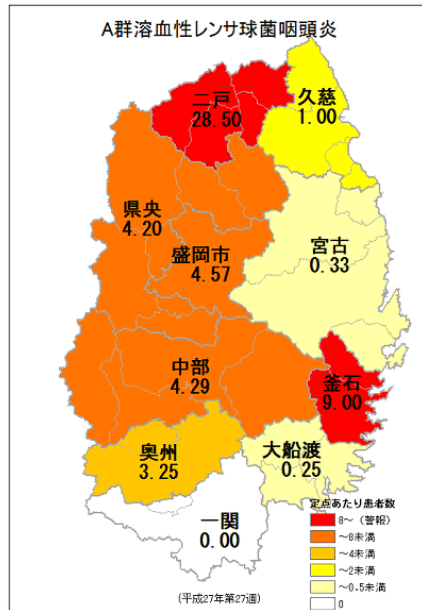
感染経路は、ヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれており、昨年盛岡市で食中毒事件が1件発生しました。

予防には、患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットも重要です。

岩手県での発生状況ですが、例年、冬と、春から初夏にかけて2つのピークがあります。2015年は第21週 (5月中旬) に急増し、その後減少が続いておりましたが、第27週に再び急増しました。第28週は減少しましたが、例年に比べて患者報告が多くなっています。また、二戸地区で6週連続して警報値 (定点あたり患者数8人) を超えています。今後とも注意が必要です。



第28週



第27週

今注目の感染症 (つづき)

感染性胃腸炎

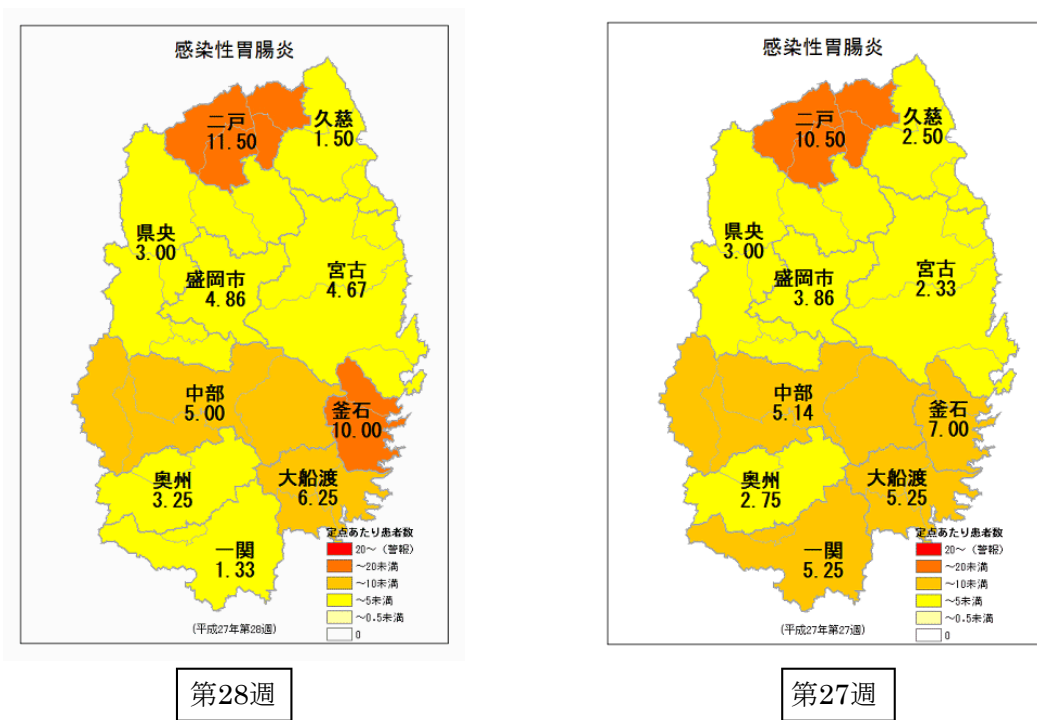
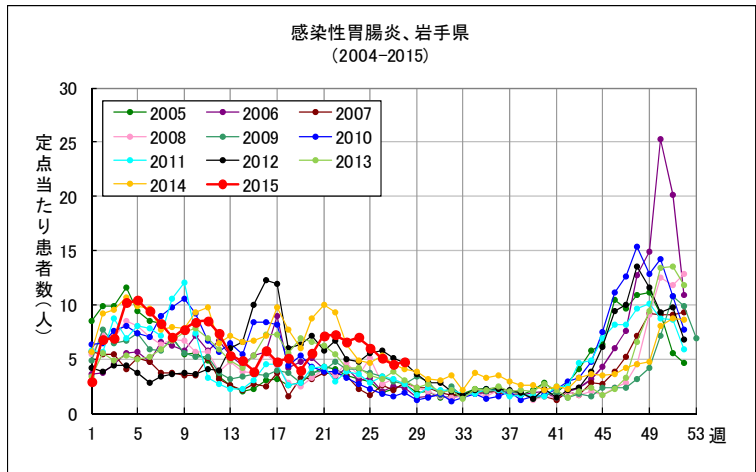
感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスが大部分を占めています。近年の流行では、患者からは流行の前半はノロウイルスが、後半はロタウイルスが多く検出されています。

感染性胃腸炎の報告数は、例年、10月から12月(第40週から第52週)にピークを迎えます。2014年は年末までは報告数の少ない状況で推移していましたが、2015年の4週目に増加をはじめ、やや報告数の多い状況が続きました。第11週以降発生数の少ない状況が続いておりましたが、第20週から、例年に比較して多い状況が続いており、今後の発生動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎の原因となるウイルスの感染経路は、主に経口感染です。感染力が強いため、保育園や幼稚園など集団生活の場では注意が必要です。予防には、調理前、食事前、用便後に石けんを用いた十分な手洗いと、塩素系薬剤による患者汚物の適切な処理、食品の十分な加熱(85～90℃で90秒以上)が重要です。

厚生労働省ノロウイルスに関するQ&A

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html



病原体検出情報

- ・インフルエンザの患者の咽頭ぬぐい液から、A香港型インフルエンザウイルスを4件、B型インフルエンザウイルスを4件検出しました。

集団感染情報

- ・この週に集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

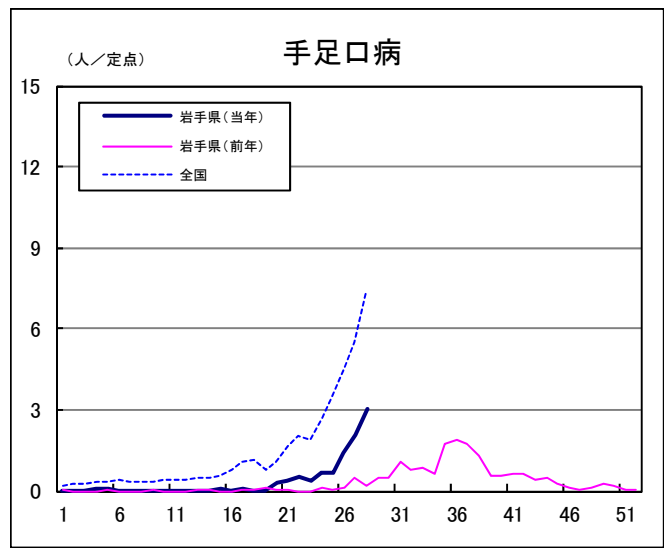
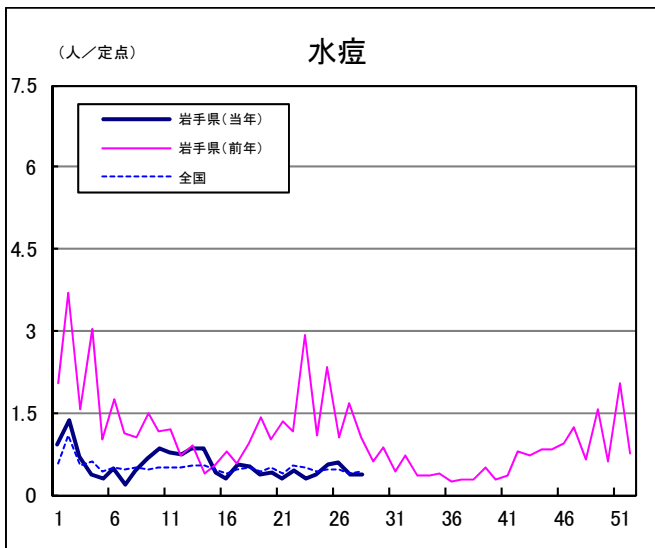
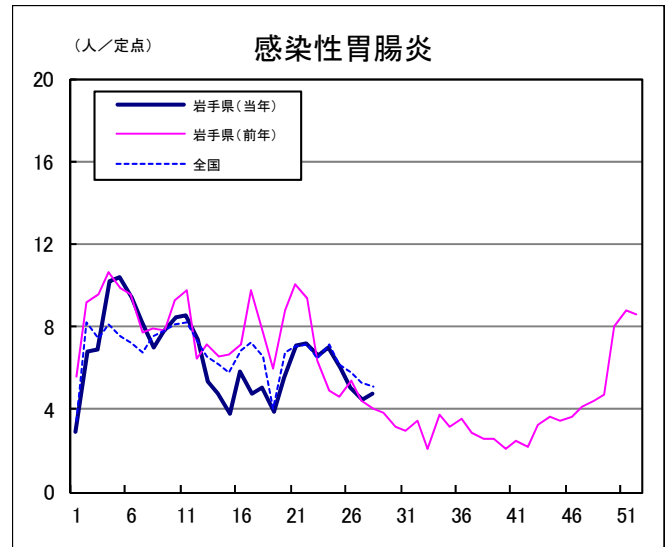
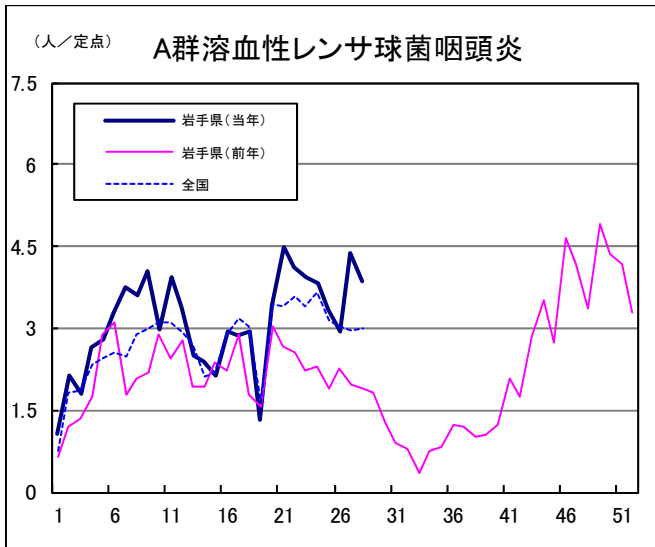
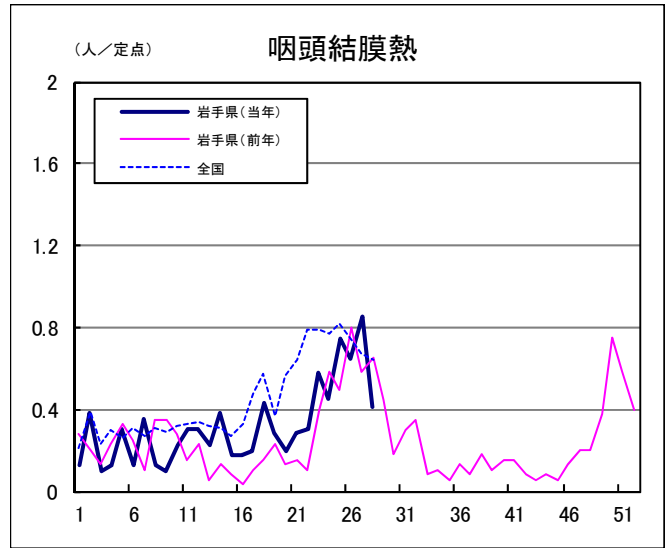
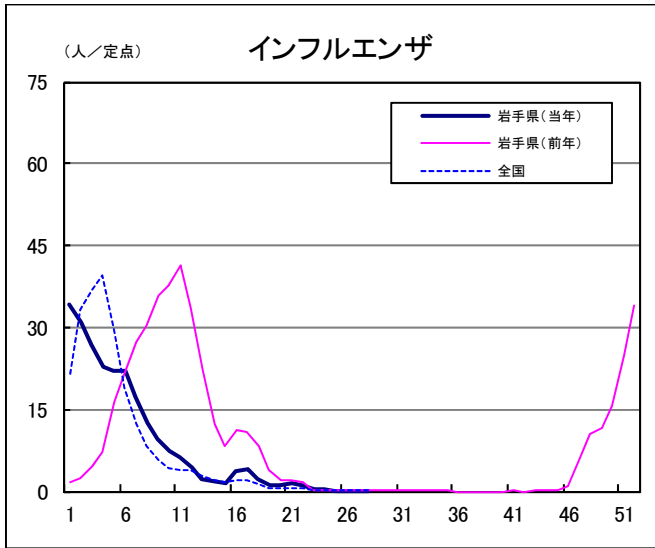
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

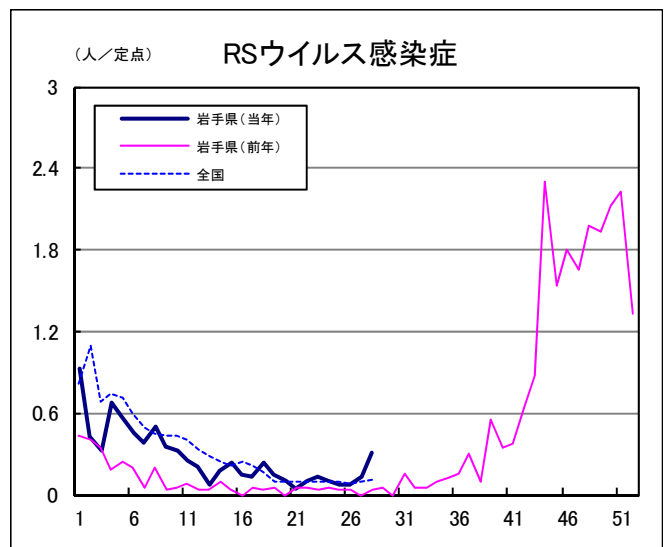
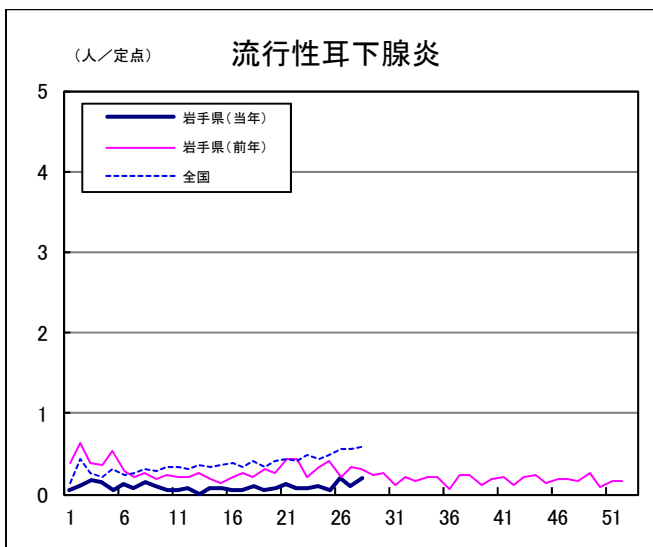
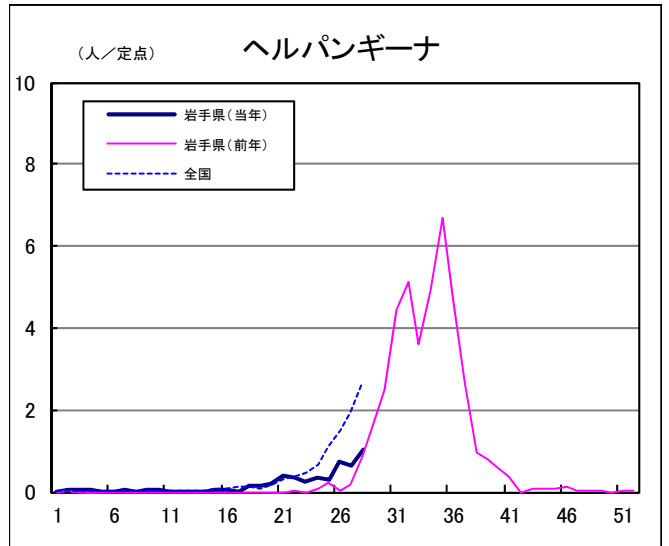
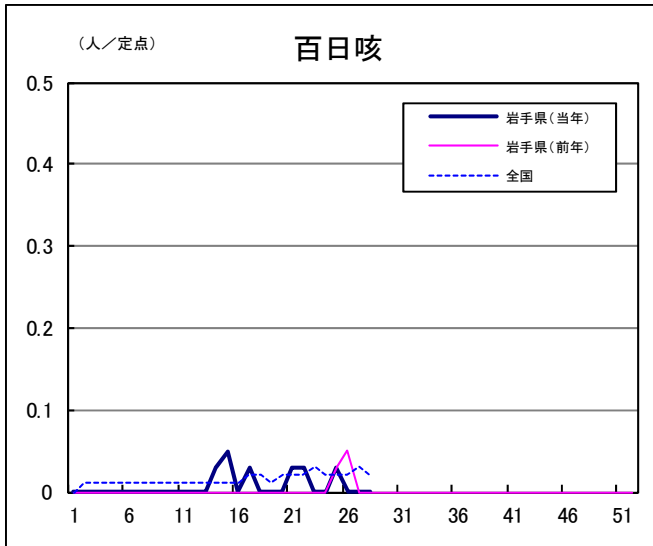
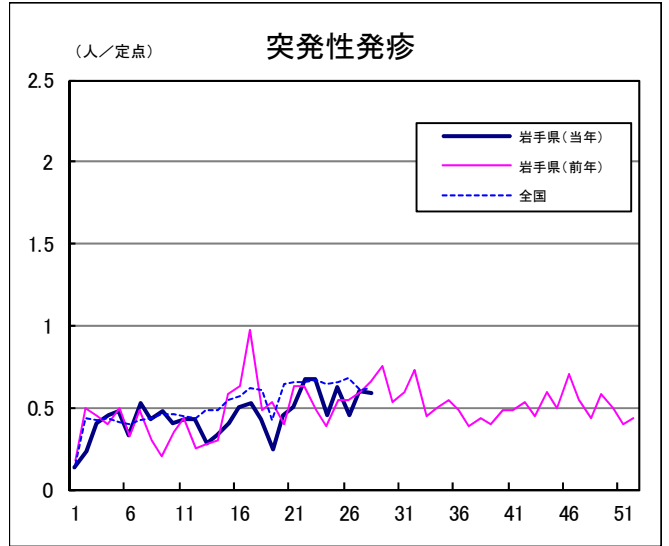
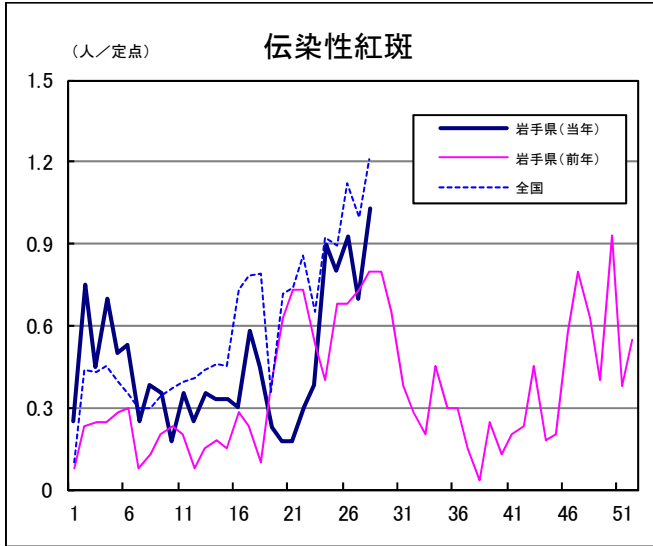
Q & A

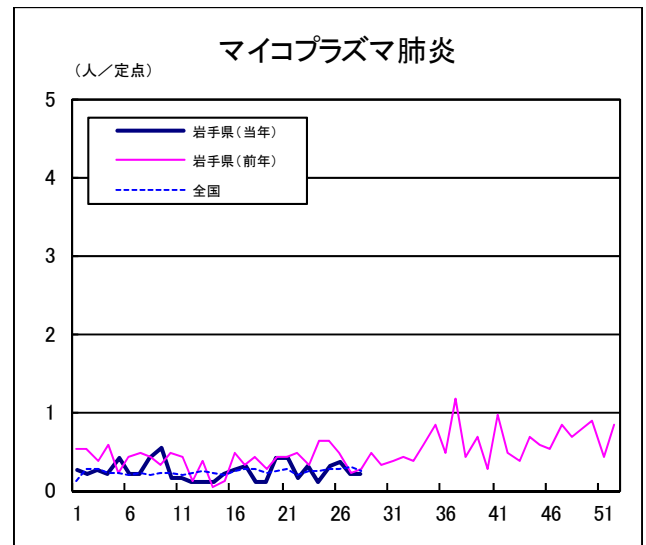
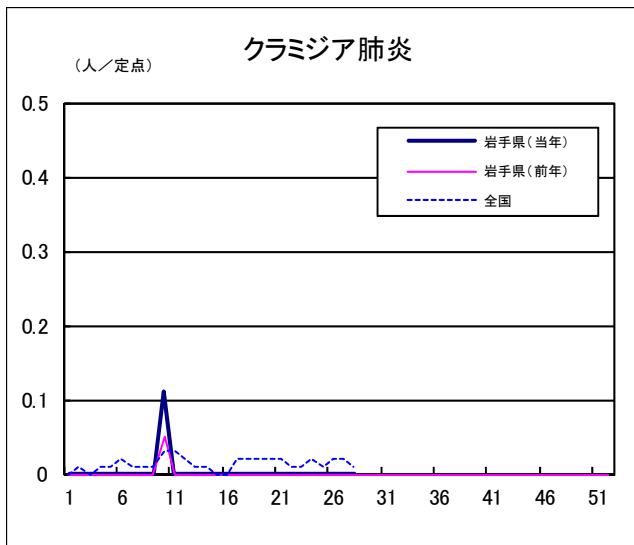
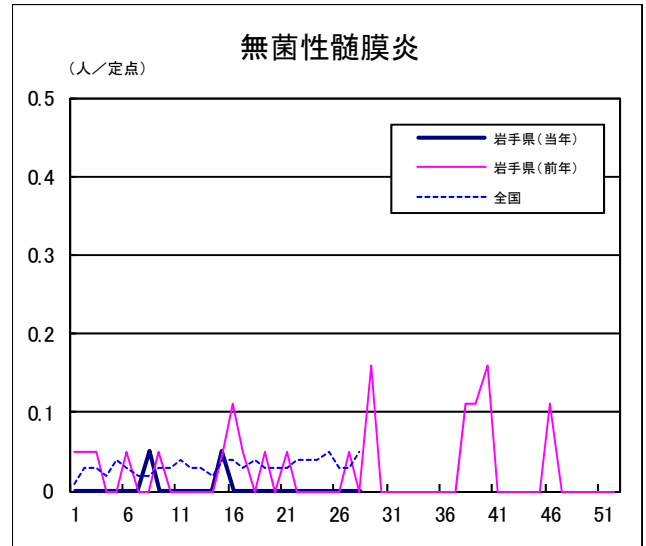
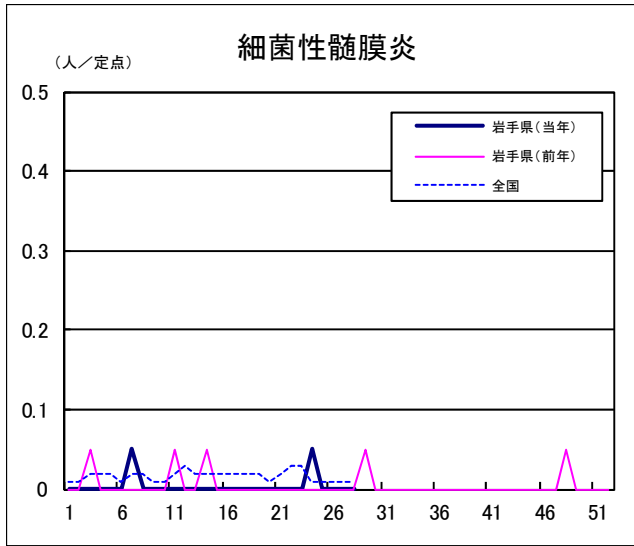
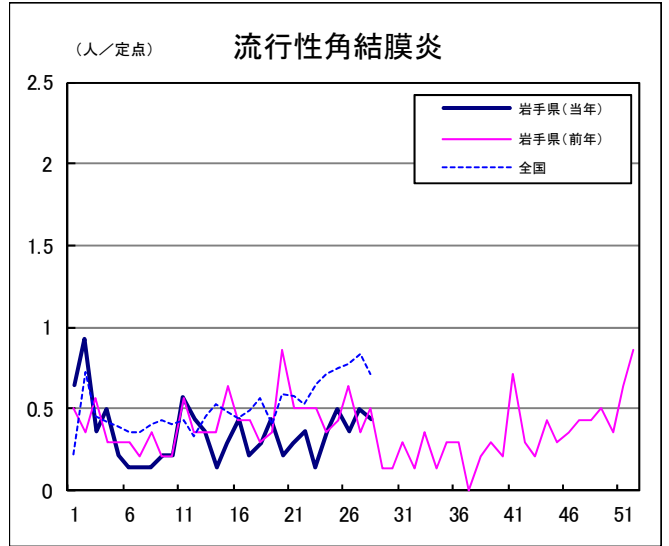
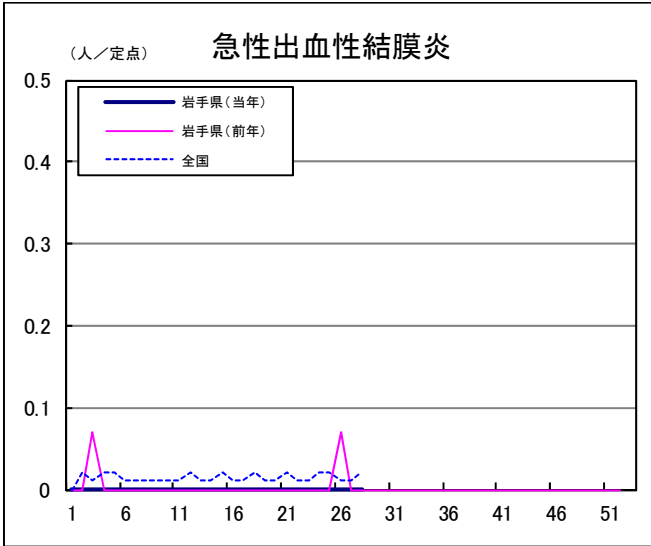
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)

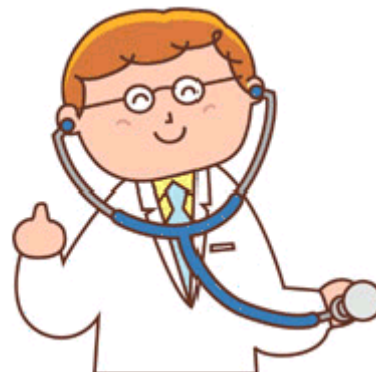






定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	65	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	8	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成27年第28週 平成27年7月17日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>